

「教育実践研究論文」表彰式を開催

今年度の「教育実践研究論文」学校部門には12編、個人・グループ部門には19編の応募がありました。これらを厳正に審査した結果、各賞が決定しました。最優秀賞・優秀賞・優良賞を受賞された方をお招きし、11月23日（土）、「ホテルチューリッヒ東方2001」において表彰式を行いました。



後列左より 春日小・土山先生 栗原北小・津田校長先生 甲田小・信末校長先生 牛田中・長谷川校長先生
東村小・後藤先生 下蒲刈中・林先生 神村小・稲田先生
前列右より 春日小・佐々木校長先生 日比崎小・中谷校長先生 河野支部長 松浦審査委員長 布野中・益田教頭先生
皆実小・原田先生 沼田西幼・富吉先生

最優秀賞・優秀賞・優良賞受賞者は次の学校・先生方です。なお、受賞論文を含む優れた研究論文は「教育実践研究論文集」に収録し、県内の各学校にお届けします。

◆最優秀賞

【学校部門】

福山市立春日小学校（校長 佐々木 智明）

研究主題 主体的・対話的で深い学びを目指した授業の創造

【1年次】～「選択・決定」・「多様な他者との対話」による「主体的・対話的な学び」の創造～

【2年次】～「多角的・多面的・多質的」な教材研究・児童の反応想定をもとに「深い学び」を求めて～

【個人・グループ部門】

益田 英樹（三次市立布野中学校）

研究主題 ふるさとを愛し、誇りに思い、社会に貢献する志をもった生徒の育成
～地域探究学習を通して～

◆優秀賞

【学校部門】

尾道市立日比崎小学校（校長 中谷 雪子）

研究主題 コミュニケーションの楽しさや達成感を実感する授業づくり
～やり取りする力を高めるための英語指導力の向上～

【個人・グループ部門】

原田 啓（広島市立皆実小学校教諭）

研究主題 ルーブリックを活用した「適切な読み」の育成に関する研究
～新学習指導要領の全面实施に向けて～

富吉 省吾（三原市立沼田西幼稚園教諭）

研究主題 小規模併設園・校のメリットを生かした幼小連携の実践
～子供たちが主体的に関わる造形遊びを通して～

◆優良賞

【学校部門】

尾道市立栗原北小学校（校長 津田 秀司）

研究主題 夢や希望の実現に向け、児童の自己有用感を高める取組

安芸高田市立甲田小学校（校長 信末 実智則）

研究主題 「甲田小学校開校 新たな歴史を築こう」

広島市立牛田中学校（校長 長谷川 洋）

研究主題 社会の形成者としてともに生きあうことのできる生徒の育成

【個人・グループ部門】

稲田 英夫（福山市立神村小学校教諭）

研究主題 ありのままの自分と向き合う自閉・情緒通級指導教室の運営

後藤 愛沙（福山市立東村小学校教諭）

研究主題 自ら考え学ぶ児童の育成

友定 優子（広島県立可部高等学校教諭）

研究主題 生徒の気づきや疑問により展開する単元・授業

林 晃也（呉市立下蒲刈中学校教諭）

研究主題 学びのストーリーをデザインする学習を通して、生徒の探求的な学びを実現する

「教育実践研究論文」最優秀賞論文の概要

学校部門

福山市立春日小学校（校長 佐々木 智明）

研究主題：主体的・対話的で深い学びを目指した授業の創造

【1年次】～「選択・決定」・「多様な他者との対話」による「主体的・対話的な学び」の創造～

【2年次】～「多角的・多面的・多質的」な教材研究・児童の反応想定をもとに「深い学び」を求めて～

本研究論文は、本校において、昨年度（1年次）から今年度1学期まで（2年次）の間、「主体的・対話的で深い学びを目指した授業の創造」という研究主題のもと教育実践を行ったことについて、成果と課題、それを踏まえた取組の改善という視点でまとめたものである。

1年次は、「取組の柱」を、次の2点の【【取組①】自分事として考えようとする「選択・決定」】（学習課題・発問の「着眼点の工夫」【現実的・仮想現実的】「生活化」【立場の明確化】「思考の焦点化」等の工夫、「選択・決定場面の位置づけ」と【【取組②】「グラウンド・ルール」（話し合いの前提）をベースにした多様な考えをもっている他者との対話】（「学級実態に応じたグラウンド・ルールの作成と話し合い場面の活用」等）として実践を行った。

1年次の成果として、授業における話し合いが活性化する場合が以前より多く見られるようになった。しかし、学校全体として児童の「対話」意識・実態に課題が残る、そのことは指導者の教科・教材等に関する知識等、児童の反応への適切な対応、通常授業の対話の目的の明確化等に関する指導者側の課題に起因すると捉えた。

そのことを踏まえ、2年次は、指導者の授業力向上にも視点をあて、「取組の柱」に【【取組③】多角的・多面的・多質（評価基準）的な教材研究・児童の反応想定を基にした授業づくり】（研究授業等における事前研修会等において参加者全員で、その教材に関する多角的・多面的かつ多質的な児童反応例を想定した上で、その内容を分類するとともに、それらの関連性における統合化・抽象化を図り、より教材研究を深めた授業実施）を加えて実践を行った。

これら【取組①・②・③】を中心とした実践を、継続的・改善的に取り組んだ結果、若手教員の授業力向上や授業場面における話し合いによる学びの深まりが見られるようになり、「対話」・「考えの深まり・広がり」に関する児童意識等に成果が見られた。



福山市立春日小学校
佐々木校長先生

個人・グループ部門

益田 英樹（三次市立布野中学校 教頭）

研究主題：ふるさとを愛し、誇りに思い、社会に貢献する志をもった生徒の育成

～地域探究学習を通して～

本校では地域の課題を捉え、課題発見・解決学習を通して布野町をPRする方法を総合的な学習の時間の中で考え発信させることとした。地域創生という夢や希望をもち、ふるさとへの愛着を高め、社会に貢献できる志をもった生徒の育成につながることを考え、主題の設定をした。

取組としては、次の2点である。

○地域と協働して郷土のよさを発信していく学びを通して、学校において育成したい生徒の資質・能力の育成を図る総合的な学習の時間の取組を行った。

○学校において育成したい生徒の資質・能力とキャリア発達に係る基礎的・汎用的能力とのつながりを明確にして、小中9年間を見通したキャリア教育を推進した。

成果としては、次の2点である。

○総合質問紙調査結果（i-check）「思いを伝える能力」、「問題解決力」、「社会参画」の項目において、全国平均を5～10pt上回る成果が出ている。

○校内アンケートの結果から、地域への貢献度も高い成果が出ており、時と場を得た地域の課題やニーズを的確に捉え、「自分の存在や活動が誰かの喜びの源になっている。」と感じ得るまでの見通しを描き、地域との連携・協働を通して着実な実践を積み上げた。



三次市立布野中学校
益田教頭先生